

とちりハ通信

とちぎリハビリテーションセンター

もくじ

- ◆各部の近況
お楽しみ鑑賞会 1
第10回リハセンターまつり開催!! 1
カルフルとちぎ2012 2
- ◆連載 2~3
リハビリテーション部より (第2回)
作業療法科 (OT)
診療部より (第2回)
被虐待児症候群~整形外科~
- ◆インフォメーション 4



第41号 2013. Jan

◆各部の近況 -各部の実施した行事、イベントなどをお伝えします-

施設部

お楽しみ鑑賞会 ~こども療育センターにピエロが来たよ!~

こども療育センターでは、10月31日(水)にお楽しみ鑑賞会でピエロのななちゃんとヨッシーさんに来てもらいました。初めてピエロに会うこどもたちも多く、びっくりして泣いてしまうのでは...という事前の心配を吹き飛ばして、たくさんのこどもたちが笑顔いっぱい楽しむことができました。

今回センターに来ていただいたピエロのななちゃんはキグレスサーカスで活躍されていた方で、ヨッシーさんは鬼怒川温泉近辺で大道芸をされている方です。いつもはお一人ずつで活動されていますが、今回はセンターのこどもたちが分かりやすく楽しめるようにと、お二人でのショーを作ってくれ、パントマイムやジャグリングをするときも簡単な説明を入れたり、たくさんのアートバルーンをプレゼントしてくれたり、いろいろな配慮をしていただいたおかげで、こどもたちの心に残るイベントとなりました。ピエロさん!ありがとうございました!またセンターに遊びに来てね♪



ななちゃんと、はいポーズ!



アクロバティックな技にハラハラドキドキ☆

管理部

第10回リハセンターまつり開催!!

恒例のとちぎリハビリテーションセンターまつりを10月3日(水)に開催しました。開始時間の直前に雨がちらつき、急ぎょ、プログラムを変更し、イベントや模擬店の一部をウェルネスゲートに移すハプニングがありました。

例年同様、こども療育センターのおみこし入場でスタートです。マロニエサークルでは勇壮な和太鼓演奏、ウェルネスゲートでは3B体操、マロニエウインドオーケストラによる演奏が行われました。「とちまるくん」が登場すると会場にはドッと歓声が沸き、子どもたちだけでなく大人たちも「とちまるくん」と写真撮影をする姿も見え、大い





に盛り上がりました。

また、チョコバナナ、フランクフルト、ポップコーン等の模擬店やバザー、手作りおもちゃ、ぬり絵・ビーズ、くじ引きや電動車いすの試乗など、職員たちの手作りの催しが盛りだくさんでした。

今回は小雨にもかかわらず、大勢の人が会場に集まることができ、例年以上に活気のあるお祭りでした。

駒生園

カルフルとちぎ2012 ～障害者文化祭に参加して～

秋晴れの中、今年も障害者文化祭に利用者全員で参加しました。

体験コーナーや模擬店、また自分たちが作った作品が展示されている展示コーナーなどを見学しながら、仲間や職員、御家族との楽しいひとときを過ごしました。

利用者の方たちは、いつもとは違ういきいきした表情や行動を見せてくれました。

帰りのバスの中では、疲れきっている方、体験したことを職員に話してくれる方など様々ですが、障害者文化祭に参加した全員が、他施設の方との交流を通して貴重な体験をした一日でした。



◆連載

リハビリテーション部より (第2回)

○作業療法科 (OT)

第1回の理学療法科に続き、第2回は作業療法科 (OT) です。Occupational Therapyを略してOTと呼びます。開設当初、7名だったスタッフも、365日リハなどさまざまな要望に対応すべく15名までに増え、作業療法室もやや狭く感じるようになってきました。

作業療法の最大の特徴は、「作業活動」を用いること。「作業活動」には日常生活の諸動作や仕事、遊びなど人間に関わるすべての諸活動を含み、治療・指導及び援助の手段としています。回復期の患者さんに対し、どんな作業活動が適しているのかを見つけることは作業療法士の腕の見せ所です。退院前には住環境調整を、退院後には自宅生活のサポートを行い、その人らしい生活の獲得を目標としています。

また、外来では発達障害のお子さんに対しての感覚統合療法も実施していますが、年々要望が高まっており、お子さんにとっての作業活動一遊び一の奥深さを感じつつ日々奮闘しています。



診療部より（第2回）

○被虐待児症候群 ～整形外科～

概念：

児童虐待の定義は、1962年、アメリカの小児科医ケンプ（Kempe）が、親やそれに代わる養育者の故意による子供の負傷の症例が少なくないことを示し、これを「バタードチャイルド症候群（Battered child syndrome）」と名付けたことに始まります。これが子供の虐待が社会的に認められた最初であり、日本ではこれを「被虐待児症候群」として紹介されました。近年では、性的虐待も稀ではないことが明らかになり、ネグレクト（放置、保護の怠慢）や身体的暴力を伴わない心理的虐待も含めて「児童虐待（child abuse）」と言われるようになりました。したがって、児童虐待のタイプは、①身体的虐待、②ネグレクト、③性的虐待、④心理的虐待、の4つに分類されるのが一般的です。しかし、実際の児童虐待では複数のタイプが混在していることもしばしばみられます。

年齢分布：

虐待による骨折全体の80%は1歳未満に、90%は2歳未満に起こるといわれます。乳幼児は年長児に比べて活動性は低く、身長も低く、体重も軽いので普通の状態では骨折が少ないのは当然のことで、骨折があればやはり虐待のことも考えるべきです。

特徴：

児童虐待の骨折の特徴は、以前から、①発症時期の異なる複数の骨折、②多量の骨膜下骨新生（レントゲン）、③骨幹端が侵される傾向、がみられるとされています。そのほか、長管骨以外に肋骨骨折、脊椎棘突起骨折に留意することが大切です。交通外傷を除き、小児に肋骨骨折が起こることは極めて稀なことであり、見られた場合には虐待の可能性を考える必要があります。

治療：

特別なことが無い限り、骨折については標準的な骨折の治療に準じて行います。さらに大切なことは、普通の骨折とは考えにくい場合には両親とよく話し、その発症に納得がいかず、本症候群の疑いがあれば、関係者と連絡をとり、再発の防止を図ることです。

虐待の疑いが濃厚と考えた時の対処法：

①子供の保護

子供が少しでも危険にさらされる可能性があるときは、入院をさせるか、児童相談所に通告して一時保護を求め、子供の安全を確保します。

②通告

虐待を発見した医師は、児童相談所もしくは福祉事務所に通告する義務があります。通告は疑った段階で行われるものであり、事前に証明する必要はありません。逆に、通告を怠ることは、子供を危険にさらすこととなります。

③警察への通報

絶対に必要なのは、不審死で虐待死が疑われるときです。しかし、虐待者の暴力が激しく、子供や医療関係者の安全が脅かされるときには、通報するのが望ましいでしょう。

◆インフォメーション

◎高次脳機能障害セミナー

講演「高次脳機能障害～どう対応したらよいか」（手話通訳・要約筆記あり）

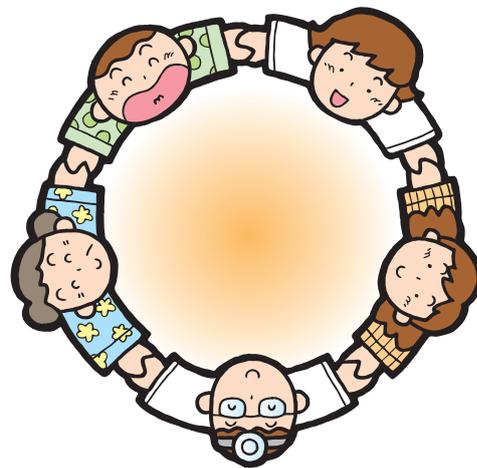
神奈川リハビリテーション病院 高次脳機能障害支援室長 青木重陽しげはる医師

- 日 時 平成25年2月3日（日）13：30～16：00（受付 13：00～）
- 会 場 とちぎ健康の森 講堂 宇都宮市駒生町3337-1
- 参加費 無料
- 定 員 先着350人
- 申込期限 平成25年1月25日（金）
- 申込方法 電話またはファックスにて、とちぎリハビリテーションセンター相談支援部までお申込みください
TEL 028-623-7010 FAX 028-623-7255

事故や病気などによる脳の損傷によって引き起こされる高次脳機能障害。「新しいことが覚えられない」「気が散って集中できない」「仕事の段取りを考えられない」「感情のコントロールができない」などのさまざまな症状が現れます。

当事者、家族、支援者はこのような症状にどのように対応したらよいのでしょうか。

県民の皆様を高次脳機能障害を理解していただき、よりよい支援を拡げていくために、皆様の参加をお待ちしています。



◎高次脳機能障害巡回相談会

- 日時・会場 下の表のとおり。
- 内 容 高次脳機能障害についての個別面談（予約制）
- 対 象 高次脳機能障害を持つ本人または家族
- 申込方法 下記電話番号によりお申込みください
TEL 028-623-6114（とちぎリハビリテーションセンター高次脳機能障害担当）

開催日 (申込期限)	会 場	対象となる市町	開催時間
1月22日（火） (1月15日)	真岡市総合福祉保健センター	真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町	14：00 ～ 15：30
2月5日（火） (1月29日)	佐野市中央公民館	佐野市	
2月19日（火） (2月12日)	足利市総合福祉センター	足利市	
3月5日（火） (2月26日)	日光市今市保健福祉センター	日光市	

編集後記

寒さも一層厳しくなり、こたつとみかんが恋しい季節となりました。空気が乾燥し、風邪を引きやすい時期ですので、手洗いうがいを忘れずに体調に気をつけましょう。

（発行）とちぎリハビリテーションセンター 総務企画課

〒320-8503 宇都宮市駒生町 3337 - 1
TEL.028-623-6101 FAX.028-623-6151
URL <http://www.rhc.pref.tochigi.lg.jp/index.html>